

dotslineの完全子会社化に関するご説明

ジャパニクス株式会社

2026年10月29日

子会社化の狙い

データエンジニアリングの専門性で、AI時代の需要を取り込む

ジャパニアス

構築・運用を担う
エンジニアと顧客基盤



dotsline

生成AI時代に最適な
データ基盤の構想・設計・構築力

dotslineの上流設計力 × ジャパニアスの実行力で、構想から運用まで一気通貫で提供

dotslineの会社概要と業績

データ・AI活用の土台となるデータ基盤を、構想策定から設計・構築・運用まで手がけるデータエンジニアリング企業

第3期 2026年10月期 (見込み)	売上高 581,651千円	営業利益 171,494千円	営業利益率 29.5%
第2期 2025年10月期	売上高 219,052千円	営業利益 44,046千円	営業利益率 20.1%

- ・ 設 立：2023年11月
- ・ 所 在 地：東京都中央区築地2-11-10 築地中央ビル6階
- ・ 事業内容：データ基盤構築支援（データ基盤の構想・設計・構築・運用）
- ・ 主な技術：Google Cloud、Snowflake、Databricks、Microsoft Fabric ほか
- ・ 設立以来2期連続で黒字

※記載の製品名は各社の商標または登録商標です

dotslineの役員紹介

2名の取締役が会社を牽引

代表取締役

松本 祐輝

DATUM STUDIO株式会社、アクセンチュア株式会社にてデータサイエンティストとして従事。

エンタープライズ向けのデータエンジニアリング業務やコンサルタント業を経て、スタートアップで取締役として事業を推進。

エンタープライズ向けのデータ基盤構築から、マーケティング領域・生成AI関連のデータサイエンス分野の支援に強みを持ち、多方面の企業とのDX支援を実現中。

取締役

佐野 亮太郎

株式会社博報堂やスタートアップ企業にて、ARアプリケーションの設計・開発、アプリケーションログ基盤の開発等を担う。

ビッグデータ基盤の設計・構築を、業界を問わず幅広く経験。

HRデータプラットフォームサービスの開発や小売業向けの需要予測のための共通基盤、サービス業向け全社統合データ基盤の構築を実施。

グループ化後の事業拡大

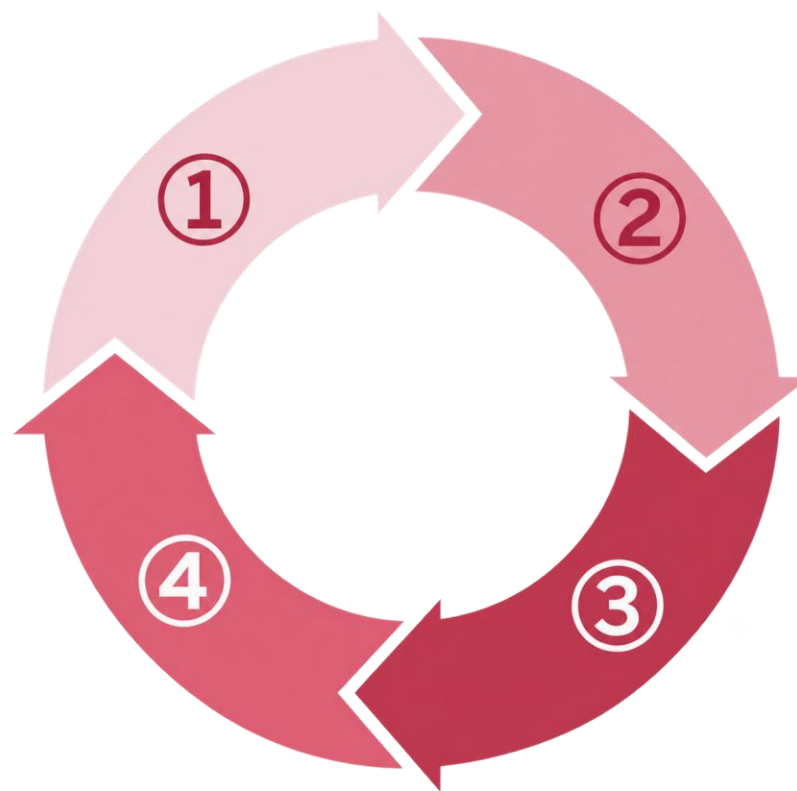
人材・顧客・提供体制・知見を循環させる4つの取り組み

① 人材の育成・配置

育成プラットフォームを活用し、
ジャパニアスのエンジニアを
データエンジニアとして育成・配置

④ 知見の標準化

設計手法や案件の知見を標準化し、
育成と提案に還元



② 顧客への展開

ジャパニアスの顧客に、データ基盤・
AI活用を構想段階から提案

③ 上流～運用フェーズまでの提供

dotslineが構想・設計を主導し、
グループで構築・運用まで担う

ともに、次の成長へ

AI時代の “データの力”を、 すべての企業へ。

dotslineのデータエンジニアリングの専門性と、
ジャパニアスのエンジニア・顧客基盤を掛け合わせ、
データ・AI事業をグループの新たな成長エンジンへ

dotsline

上流の専門性と一気通貫の支援力

×

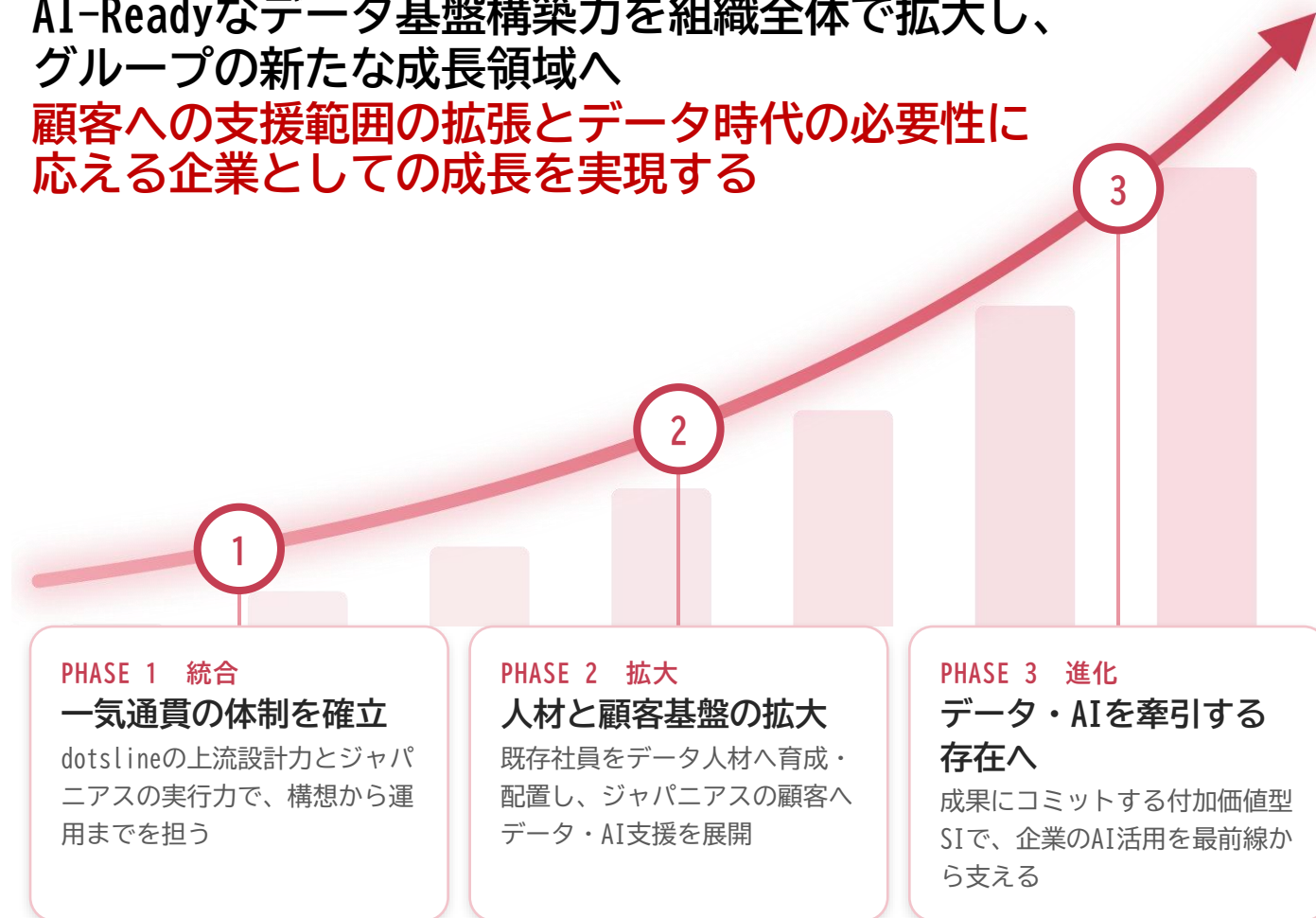
ジャパニクス

エンジニアと顧客基盤

**データ・AI
事業の拡大**

GROWTH STORY | グループで描く成長の道筋

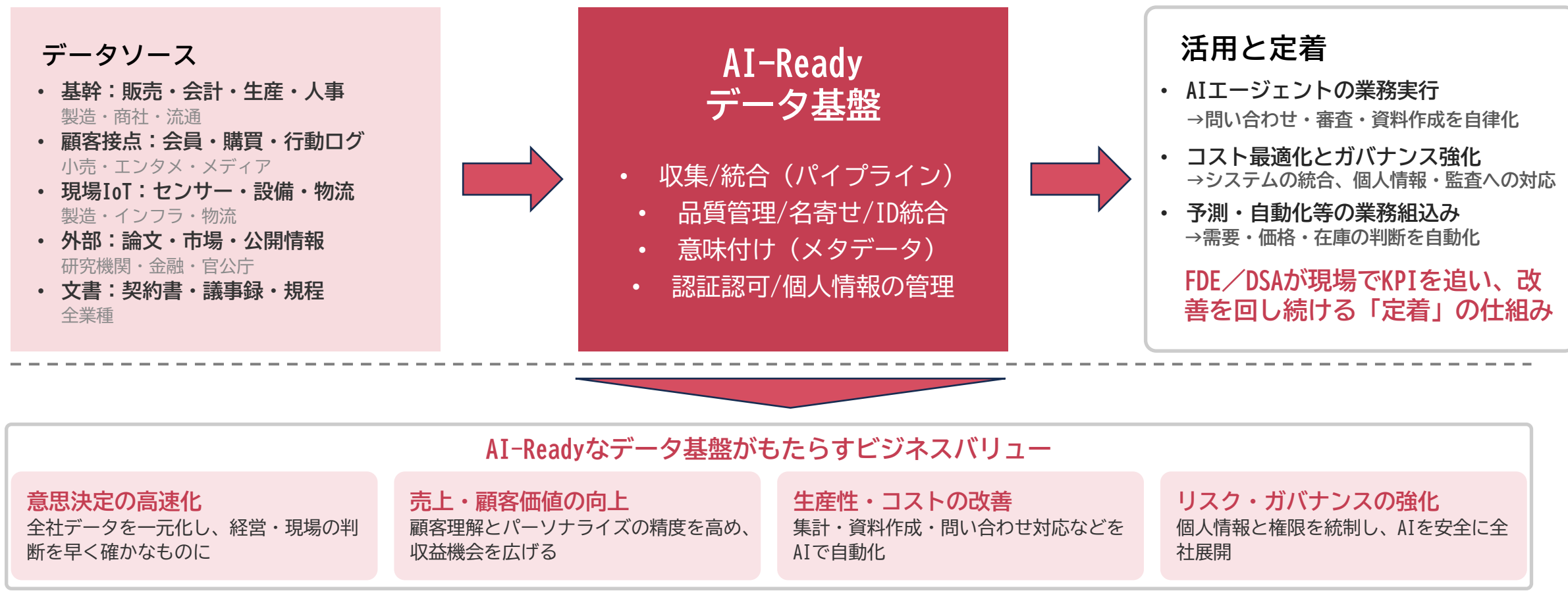
AI-Readyなデータ基盤構築力を組織全体で拡大し、
グループの新たな成長領域へ
顧客への支援範囲の拡張とデータ時代の必要性に
応える企業としての成長を実現する



構想から運用・AI活用まで一気通貫で、お客様の価値向上に貢献してまいります

AI活用の成否を決める「AI-Ready」なデータ基盤

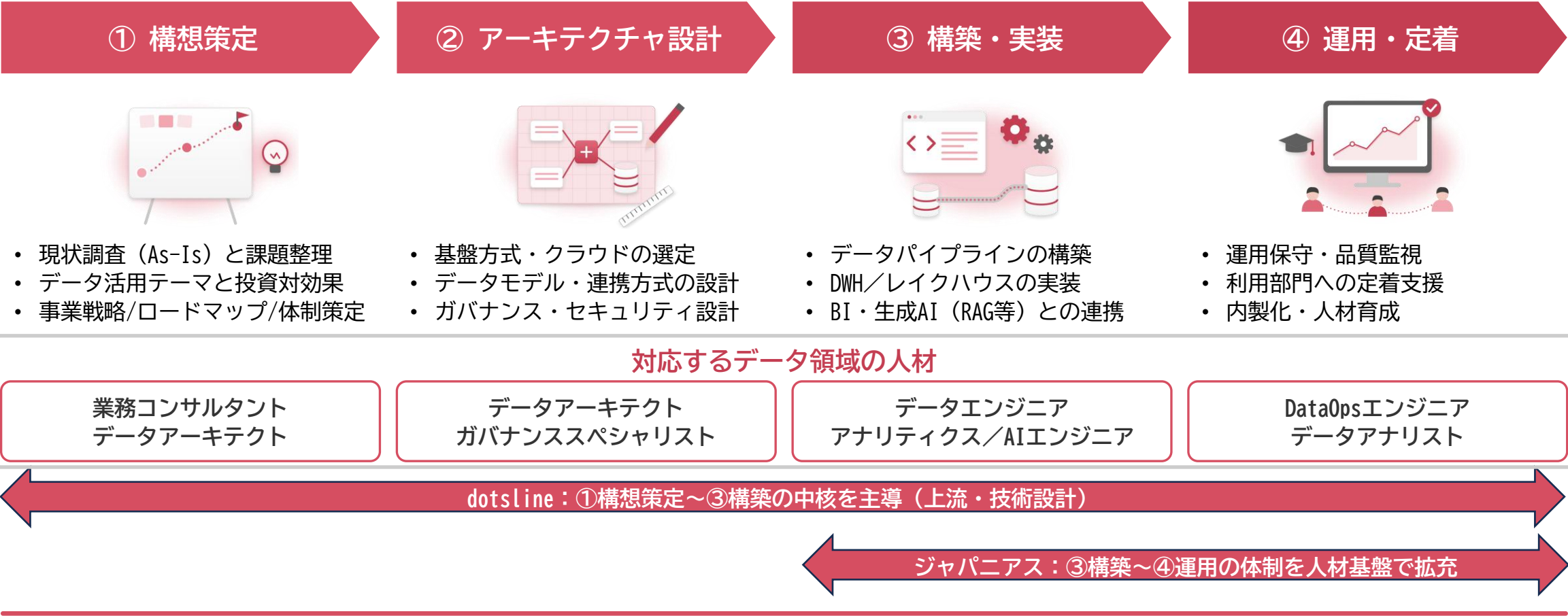
生成AI・AIエージェントの成果は、「AIが正しく使えるデータ」が揃っている品質と権限管理を備えたデータ基盤が重要です



AIが正しく使えるデータを、安全かつ継続的に供給する仕組みづくりが、AI活用の土台になる

データ・AIプロジェクトの工程と、両社の役割

成否を左右するのは上流の構想・設計。規模の拡大には、構築・運用を担う体制が欠かせない



上流から案件を主導し、グループのエンジニアで実行する。人月の提供にとどまらない付加価値型のSI体制へ

AI-Readyなデータ基盤を実現する5つのケイパビリティ

業界を問わず、構想策定から設計・構築・運用・内製化支援までを同一チームが一貫して提供

	①戦略・構想支援	②モダンデータ基盤	③組織ガバナンス整備	④AI基盤構築	⑤活用・定着伴走
提供内容	データ戦略・AI活用構想の策定、ユースケース発掘と投資対効果の試算、ロードマップ・推進体制の設計	クラウドDWH・レイクハウスの設計と構築、データパイプラインの自動化と運用	ID統合・名寄せ（マスタデータ管理）、品質監視、メタデータ管理、権限・個人情報情報の統制	社内文書・業務データを生成AIにつなぐRAG基盤、AIエージェントが参照・実行できるデータ環境の構築	顧客の最前線に入り込み、生成AI・データ施策の実装から運用・改善まで成果にコミット
技術・手法	業務・データアセスメント、As-Is/To-Be分析、KPI設計、PoC計画	Snowflake/Databricks/Microsoft Fabric/Google Cloud等の主要クラウドサービス、各種ETL/ELTツール	データカタログ・リネージ、データ品質テスト、認証/認可等アクセス制御	生成AI API、ベクトル検索、セマンティックレイヤー、AIエージェントの業務組み込み	FDE/DSAによる現場伴走、AIエージェントの運用・評価（LLM0ps）、KPIモニタリングと改善サイクル
もたらす価値	経営課題とデータ投資を結びつけ、成果につながる打ち手を描く	分散したデータを一元化し、全社で拡張し続けられる基盤をつくる	AIと分析が「正しく・安全に」使える、信頼できるデータを供給する	AIを実業務に組み込み、検索・要約・判断支援を現場に定着させる	PoCで終わらせず、AIを現場の業務とKPIに定着させ、成果が出るまで走り切る



専門性をグループに広げる育成基盤

dotslineが開発した、データエンジニア育成プラットフォーム

① スキル診断



現在のスキルを把握

AS-IS
スキルが属人的で見えず、配置が
勘頼み

TO-BE
スキルを可視化し、育成計画と案
件配置を最適化できる

② 学習設計・知識習得



個人別の学習設計、講義用教材、生成
AIによるコーチング最適化

AS-IS
独学・OJT頼みで、習得に時間がか
かる

TO-BE
個人別カリキュラムとAIコーチで、
短期間で基礎を習得できる

③ 実践演習



実案件を想定した実践演習

AS-IS
実務経験は実案件でしか積めない

TO-BE
プロジェクトアサイン前（アサイ
ン中）に実務レベルの設計・実装
を経験できる

④ 案件対応支援



過去案件の設計知見を参照し、現場の
判断を支援

AS-IS
判断がベテランに集中し、品質が
人に依存

TO-BE
過去の知見を引き出し、若手でも
品質を保って対応できる

育成の結果、データ領域で組織が強くなる（ジャパニアスのエンジニアへの展開）

■ データ人材のボリュームアップ
再現性のある育成で、データエンジニアを継続
的に輩出

■ 技術アセット・品質の標準化
設計・実装の型と過去の知見を共有し、属人性
を最小化

■ 高度なデータ領域の大規模案件に即応
育成済みの人材を機動的に配置し、体制拡張を
加速

本資料に関する注意事項

本資料には、将来の見通しに関する記述が含まれています。これら将来の見通しに関する記述は、当該記述を作成した時点における情報に基づいて作成されています。

これらの記述は、将来の結果や業績を保証するものではありません。このような将来予測に関する記述には、必ずしも既知および未知のリスクや不確実性が含まれており、その結果、将来の実際の業績や財務状況は、将来予想に関する記述によって明示的または黙示的に示された将来の業績や結果の予測とは大きく異なる可能性があります。

上記の実際の結果に影響を与える要因としては、国内および国際的な経済状況の変化や、当社が事業を展開する業界の動向などが含まれますが、これらに限られるものではありません。

また、当社以外の事項・組織に関する情報は、一般に公開されている情報に基づいており、当社はそのような一般に公開されている情報の正確性や適切性を検証しておらず、保証していません。